

マンガで学ぶ予防接種 ～染子先生のおはなし～

その⑩

インフルエンザってなあに？

国立感染症研究所 感染症疫学センター

うん！
毎年冬になると
流行するよね。

インフルエンザは
学君も知っている
かな？



まなぶ
学くん



そめこ
染子先生

季節性インフルエンザは急性の呼吸器の感染症で、ウイルスに感染してから症状が出るまでの潜伏期間は24～72時間です。発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛などの全身症状があらわれます。鼻詰まり、のどの痛み、せきなどの呼吸器の症状は遅れて出現することが多いです。合併症がなければ2～7日で治りますが、肺炎や脳症を併発して症状がさらに重くなることがあります。

そうよ！
原因となるウイルスが
まったく別なので
注意してね

免疫力が落ちていたり、
肺や心臓、腎臓などに
持病がある人にとっては
注意が必要な病気なの

風邪に症状が
似ているけど、
別の病気なんだよね？



季節性のインフルエンザワクチンを製造するために使われるウイルスは季節性インフルエンザの流行状況等を考慮して毎年選定されます。このワクチンには季節性インフルエンザウイルスの A 型 2 種類 (H1N1 亜型と H3N2 亜型) と B 型 2 種類 (山形系統とビクトリア系統) の合計 4 種類が含まれる不活化ワクチンです。ワクチンの製造には鶏卵が使われており、鶏卵の成分は製造過程でほぼ除去されていますが、重い卵アレルギーがある人に対しては注意が必要です。発病の阻止効果に加え、肺炎などの重症化や死亡を予防できると考えられています。保存剤・安定剤を加えて、最後に A 型と B 型の各 2 種類を混合させ、分注したら完成です。わが国での 1 歳以上 6 歳未満での発熱を目印とした発病の阻止効果は 30% 前後とされていますが、肺炎などの重症化や死亡を予防できると考えられています。



ワクチンを接種することでかかってしまっても症状を軽くすることができるよ

①定期接種のインフルエンザワクチン

【接種年齢】 65 歳以上の者および 60 歳以上 65 歳未満で特定の疾患を有する者 (※)
※心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害を有する者

【接種間隔】 1 回

【接種量】 いずれも 1 回に 0.5mL を皮下接種

②任意接種のインフルエンザワクチン

【接種年齢】 生後 6 か月以上 ※対象年齢が 1 歳以上のワクチンがあります

【接種間隔】 13 歳未満……2 から 4 週 (4 週が望ましい) あけて 2 回

13 歳以上……1 回接種が原則ですが、医学的な理由で、医師が 2 回接種を必要と判断した場合は、その限りではありません。

【接種量】 いずれも 1 回に 0.5mL を皮下接種 ※3 歳未満は 1 回に 0.25mL



かかりつけのお医者さんとよく相談して、家族をインフルエンザから守ってくださいね!